

COPD 急性増悪により人工呼吸器治療施行、その後離脱を果たすまで

～本院での包括的呼吸リハビリテーション～

医療法人社団永生会 南多摩病院

○ 金田 雅大、中野 佳奈、大井 裕子

【はじめに】今回 COPD 急性増悪により人工呼吸器治療施行後、離脱開始時期が遅れたが短期離脱を果たした症例を経験したのでここに報告する。

【症例・現病歴】症例：85歳、男性

現病歴：COPD、重症肺炎、急性呼吸不全、慢性心不全

経過：上記診断にて入退院を繰り返していたが外来治療中呼吸苦増悪、SpO₂60%へ低下し救急車にて来院。O₂5l/min で血液ガス所見が PaO₂93.0mmHg、PaCO₂74.7mmHg と PaCO₂高値にて入院。2 病日より O₂2l/min で血液ガス所見が PaO₂59.8mmHg、PaCO₂125.9mmHg と PaO₂減少、PaCO₂上昇のため人工呼吸器治療施行。痰貯留著名で感染症状改善が認められなかったため 14 病日より離脱開始し、20 病日に CPAP に設定、21 病日に昼間 CPAP・夜間 SIMV に設定の後 27 病日に離脱可能となり O₂1.5l/min 投与となる。

【介入方法】15 病日より人工呼吸器治療継続のまま理学療法介入開始し①Bed up90°、②自発呼吸訓練、③坐位訓練、④立ち上がり・立位訓練、⑤筋力増強訓練施行。看護部も不隠状態が強く痰貯留が著名であったためルート確保・頻繁な吸引、また声掛け・筆談・車椅子坐位を実施。

【結語】本症例は 85 歳と高齢であり、状態は不安定で離脱開始時期が遅れたが、他部門と連携した包括的呼吸リハビリテーション導入で短期離脱が可能となった。